

空港制限区域内の自動走行に係る実証実験検討委員会

設 立 趣 意 書

現在我が国の空港では、訪日旅客 4,000 万人時代に向けて積極的な機能強化が進められている一方で、生産年齢人口の減少に伴う労働力不足が顕在化しており、供給面での制約が懸念されている。航空局ではこの課題に対応するため、官民が役割分担しながら、IoT、AI、自動化技術等の先端技術を活用した“航空イノベーション”を推進し、今後の我が国航空輸送の拡大を支えていく方針としている。このため、~~平成 30~~2018 年 1 月に「航空イノベーション推進官民連絡会」を立ち上げ、官民一丸となって取り組みを開始したところである。

こうした中で、特に労働力不足が深刻化している地上支援業務については、省力化・自動化が強く求められている。上記連絡会で公表~~した~~している「官民ロードマップ」では、旅客や手荷物など~~の~~各分野において、~~平成 32~~2020 年までに省力化技術を導入することを目標としており、~~今年度は、その取組の一環として、~~空港の制限区域内において、~~乗客・乗員の輸送を想定した~~自動走行の実証実験を実施する~~予定~~こととしている。

本委員会は、実証実験に係る公募要領の検討、実証実験実施者の選定、実施内容の検討及び結果の評価について、委員から意見を聴取し、実証実験を的確に実施するとともに実装に向けた課題を抽出することを目的として設置するものである。